

投薬禁忌リスト

List for Contraindication

令和3年版

本書の内容と使い方

本書は原則として薬価基準に記載されている医療用医薬品(令和3年3月5日告示まで)および、低用量ピル、ED治療薬など一部の薬価基準記載外医薬品を収録、添付文書に警告、禁忌等の記載のあるものを製品ごとにまとめ、医薬品の臨床使用にあたり“警告”や“投与禁忌”等があるか否かについての判断の一助となるよう編集した。また、平成31年(2019年)4月より運用が始まった添付文書の記載要領の改正に伴い、新記載要領(以下、新様式)にも対応した。

【内容】

1. 収録医薬品

- 1) 添付文書に[警告]、[禁忌]、[原則禁忌]の記載のあるもの。
 - 2) [相互作用]で[併用禁忌]、[原則併用禁忌]の記載のあるもの。
 - 3) [妊婦]、[授乳婦]、[小児]、[高齢者]に対して“投与を避ける”等の記載のあるもの。
ただし、“投与しないことが望ましい”と記載のあるものについては本書から除いた。
 - 4) [合併症・既往歴等]、[腎障害]、[肝障害]については、禁忌に関連する注意事項を抜粋した。
 - 5) [重大な副作用]があるものは、代表的な症状を列記した。
2. 従来の様式(以下、旧様式)と新様式に区別した。また、新様式に付与された項目の固定番号を示す参照番号が書かれているものはその参照番号も掲載した。ただし、[重大な副作用]では割愛した。
3. 同じ見出し語(後述【記載形式】参照)の中で、旧様式と新様式が混在するものは、原則として新様式の内容を採用した。剤形が異なるものについては枠を分けて掲載した。
4. 併用禁忌のある製品については相手薬となる医薬品の一般名、代表的な製品名、薬物群名等を記載し、禁忌の理由も記した。なお、対象薬剤は巻末にまとめて例示した。
5. 収録内容は添付文書(2月28日まで入手のもの)およびDrug Safety Update: 医薬品安全対策情報(日本製薬団体連合会)等に依った。

【記載形式】

1. 見出し語と配列

- 1) 製品名の基本的名称でまとめ五十音順に配列し、基本的名称に付随した「注射用」「強力」「乾燥」等の文字、「錠」「3mg」等の剤形・規格単位等の部分は省いた(例1)。ただし、製品を特定しやすくするなどの利便性には配慮した(例2)。

(例1) エリスロシン錠 100mg

エリスロシンドライシロップ 10% → エリスロシン

エリスロシン点滴静注用 500mg }
}

(例2) 産婦人科用イソジン → イソジン〔産婦人科用〕

(基本的名称を先に出して修飾語を後に置く)

ケフラール細粒小児用 → ケフラール小児用(剤形のみを省略)

強力ネオミノファーゲンシー → 強力ネオミノファーゲンシー

2) 新様式には、見出し語の前に㊦マークを付け、旧様式と区別した（見出し語が2つ以上ある場合は先頭のみ）

(例) **㊦** **アクトス** (武田テバ薬品) インスリン抵抗性改善剤-2 型糖尿病治療剤-
アクトス OD (武田テバ薬品) ビオグリタゾン塩酸塩

2. 会社名

見出し語の後の（ ）中に記載し、3社以上の場合は省略した。なお、会社名を英字略称で表記したものについては後述 6. に示した。

3. 薬効分類名

見出し語枠の右肩に記載した。一部の製品については包括的表現にした。

4. 一般名

薬効分類名の下に記載し、一部のものについては塩基等を省略した。

5. 警告・禁忌事項等

- 1) 添付文書に警告・禁忌事項等の記載のある製品の内用薬、注射薬、外用薬、歯科用薬の別および該当剤形等を略号・符号で表示した。また、各項目についても下記略号で表示し、その内容を記載した。

〔内・注・外・歯の別〕	〔警告・禁忌事項等〕
内 ……内用薬	警告 ……警告
注 ……注射薬	禁忌 ……次の患者には投与しないこと
外 ……外用薬	原則禁忌 ……次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること
歯 ……歯科用薬	併禁 ……併用禁忌、併用しないこと
	原則併禁 ……原則併用禁忌、原則として併用しないこと
	妊婦 ……妊婦への投与
	授乳婦 ……授乳婦への投与
	小児 ……小児等への投与
	高齢者 ……高齢者への投与
	合併症・既往歴等 ……合併症・既往歴等のある患者（※）
	腎障害 ……腎機能障害患者（※）
	肝障害 ……肝機能障害患者（※）
	重副 ……重大な副作用

(※) 新様式のみ

なお、剤形符号はまとめて後述 6. に示した。

- 2) 基本的製品名が同じで、警告・禁忌事項およびその内容等に違いがあるものについては縦線で区分し、製品が特定できるよう、内・注・外・歯の別および剤形を表示した。また、同一剤形で規格によって記載内容に違いのあるものについては剤形符号の後に規格単位を表示した。
- 3) 各会社の改訂文書や「Drug Safety Update」等で、最新の改訂情報が得られたものについては、原則としてそれに準じた。
- 4) 表記上の統一
「～するおそれ」「～の報告がある」等の表現は、原則として省略した。
- (1) [警告] について

赤枠で囲み、原則として添付文書の記載どおりとした。

- (2) [禁忌], [原則禁忌] について

内容を損わない範囲で表記統一を行った。ただし、“本剤又は本剤の成分に対する過敏症（およびその既往）”等についての内容は、旧様式ですべて、新様式ではそれのもののみは割愛した。

例) 本剤の成分およびバルビツール酸系化合物に対し過敏症の患者

→ バルビツール酸系化合物に過敏症

・緑内障の患者 → 緑内障

- (3) [併用禁忌], [原則併用禁忌] について

表組みを採用し、見やすくした。さらに、“上昇”“増強”“増加”“延長”等の表現については「↑」, “低下”“減弱”“減少”等は「↓」の記号を適宜用いて表すなど、表現を簡潔にした。

例)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
強心配糖体 メチルジゴキシン、ジゴキシン、 プロスシラリジン、ジギトキシン 等	併用薬の作用↑、徐脈、心 室性期外収縮、房室ブロック 等の中重症状を誘発	カルシウムは併用薬 の心筋収縮力増強作 用↑

- (4) [妊婦への投与] について

“投与しないこと”という記載のあるもので、その理由等を記した。

- (5) [授乳婦への投与] について

「授乳を中止させること」「授乳を避けさせること」等の表現は“授乳中止”とし、また、投与しない場合もその理由等を記した。

- (6) [小児等への投与][高齢者への投与] について

“投与しない”という記載のあるもので、その理由等を記した。

- (7) [合併症・既往歴等][腎障害][肝障害] について

禁忌に関連する注意事項を抜粋し、参考となるよう簡潔にまとめた。

- (8) [重大な副作用] について

副作用のみを記載し、発現頻度は、具体的な数字を表記しているもの以外は略した。

6. 略号・符号および会社名略称

- 1) 略号・符号

㊦ ……末剤	㊦ ……複粒カプセル剤	㊦ ……パスタ
散 ……散剤	液 ……液剤（ゾルを含む）	㊦ ……クリーム
細 ……細粒剤	㊦ ……ゼリー（ゲルを含む）	膏 ……軟膏・硬膏
顆 ……顆粒剤	注 ……注射剤	膏 ……眼軟膏
複 ……複粒剤	注用 ……注射用剤	噴 ……噴霧剤
徐細 ……徐放細粒剤	筋 ……筋注用剤	点眼 ……点眼剤
錠 ……錠剤	静 ……静注用剤	点鼻 ……点鼻剤
徐錠 ……徐放錠剤	油性注 ……油性注射液	点耳 ……点耳剤
丸 ……丸剤	懸濁注 ……懸濁注射液	㊦ ……ゲル剤
㊦ ……シロップ剤	㊦ ……キット類	貼 ……貼付剤
㊦用 ……シロップ用（ドライシロップ、懸濁用を含む）	㊦ ……トローチ	坐 ……坐剤
㊦ ……カプセル剤	含 ……含嗽剤	㊦ ……膣用剤
徐㊦ ……徐放カプセル剤	吸 ……吸入剤	㊦ ……浣腸剤
腸溶錠 ……腸溶錠	㊦ ……パウダー	注腸 ……注腸剤
	㊦ ……パッカル	

アイエーコール （日本化薬）	抗悪性腫瘍剤 シスプラチン
-----------------------	------------------

注〔注用〕

【警告】本剤は、緊急時に十分に措置できる医療施設において、癌化学療法及び肝動注化学療法に十分な経験を持つ医師のもとで、本剤の投与が適切と判断される症例についてのみ投与すること

【禁忌】①重篤な腎障害〔腎障害が増悪。また、腎からの排泄が遅れ、重篤な副作用が発現〕②他の白金含有薬剤に過敏症の既往歴③妊婦・妊娠している可能性の婦人

【原則禁忌】高度な肝機能低下（肝障害度 C 等）〔肝障害が増悪。やむを得ず投与する場合には、適宜減量又は亜区域投与等〕

【妊婦】投与しない〔ラットで催奇形作用、胎児致死率の増加。ウサギで胎児致死率の増加。マウスで催奇形作用、胎児致死作用〕

【授乳婦】授乳中止〔母乳中へ移行〕

【重副】①急性腎不全等の重篤な腎障害②汎血球減少症等の骨髄抑制③血小板減少(1.4%)④ショック、アナフィラキシー⑤劇症肝炎、肝機能障害(35.4%)、黄疸⑥肝・胆道障害⑦心筋梗塞、狭心症、うっ血性心不全、不整脈⑧肺結核⑨悪覚障害⑩乳頭浮腫、球後視神経炎、皮質盲⑪脳梗塞⑫溶血性尿毒症症候群⑬クームス試験陽性の溶血性貧血⑭間質性肺炎⑮抗利尿ホルモン不適合分泌症候群⑯消化管出血、消化性潰瘍、消化管穿孔⑰急性肺炎⑱高血糖、糖尿病の悪化⑲横紋筋融解症

アイオナル・ナトリウム （日医工）	催眠鎮静剤 セコバルビタールナトリウム
--------------------------	------------------------

【注】〔注用〕 **【禁忌】**①バルビツール酸系化合物に過敏症の既往歴②急性間歇性ポルフィリン症〔酵素誘導によりポルフィリン合成を促進、症状を悪化〕

【原則禁忌】①心障害〔バルビツール酸系化合物の大量投与で血管拡張作用、心拍出量の減少、血圧下降が増強〕②肝障害、腎障害〔代謝・排泄の遅延で副作用が発現〕③呼吸機能低下〔呼吸中枢抑制作用により、症状が悪化〕④薬物過敏症

【重副】①皮膚粘膜眼症候群②チアノーゼ、呼吸抑制③依存性、離脱症状

アイオピジン UD （ノバルティス）	レーザー術後眼圧上昇防止剤 アブラクロニジン塩酸塩
---------------------------	------------------------------

【外】〔点眼〕 **【禁忌】**①クロニジンに過敏症の既往歴②モノアミン酸化酵素阻害剤を投与中

併禁

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
モノアミン酸化酵素阻害剤	急激な血圧↑	本剤は直接的な血管収縮作用を有するため、ノルアドレナリンの代謝を抑制する薬剤との併用で、過度の血管収縮を起こす

【授乳婦】授乳中止〔ヒト母乳中への移行は不明〕

【重副】〔類薬〕幻覚、錯乱

アイクシルシグ （大塚製薬）	抗悪性腫瘍剤 ボナチニブ塩酸塩
-----------------------	--------------------

内〔錠〕

【警告】〔錠〕本剤は、緊急時に十分対応できる医療施設において、造血器悪性腫瘍の治療に對して十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤の投与が適切と判断される症例についてのみ投与する。また、本剤による治療

開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分に説明し、同意を得てから投与を開始する〔錠〕心筋梗塞、脳梗塞、網膜動脈閉塞症、末梢動脈閉塞性疾患、静脈血栓塞栓症等の重篤な血管閉塞性事象が現れることがあり、死亡に至った例も報告されている。本剤の投与開始前に、虚血性疾患（心筋梗塞、末梢動脈閉塞性疾患等）、静脈血栓塞栓症等の既往歴の有無、心血管系疾患の危険因子（高血圧、糖尿病、脂質異常症等）の有無等を確認した上で、投与の可否を慎重に判断する。また、本剤投与中は患者の状態を十分に観察し、胸痛、腹痛、四肢痛、片麻痺、視力低下、息切れ、しびれ等の血管閉塞性事象が疑われる徴候や症状の発現に注意する〔8.2、11.1.1-11.1.4 参照〕〔錠〕重篤な肝機能障害が現れることがあり、肝不全により死亡に至った例も報告されているので、本剤投与開始前及び投与中は定期的に肝機能検査を行い、患者の状態を十分に観察する〔8.3、9.3、11.1.7 参照〕

【禁忌】〔錠〕本剤（成分）に過敏症の既往歴②妊婦・妊娠の可能性〔9.5 参照〕

【妊婦】ラットで催奇形性等〔2.2、9.4.1 参照〕

【重副】〔錠〕①冠動脈疾患(3.8%)①①②脳血管障害(2.9%)①①③末梢動脈閉塞性疾患(2.7%)①①④静脈血栓塞栓症(1.7%)①①⑤骨髄抑制(48.8%)①①⑥高血圧(14.1%)①①⑦肝機能障害(17.5%)①①⑧肺炎(6.1%)①①⑨体液貯留(11.6%)①①⑩感染症(12.4%)①①⑪重度の皮膚障害(1.7%)①①⑫出血(2.3%)①①⑬心不全(1.9%)、うっ血性心不全(0.8%)①①⑭不整脈(4.6%)①①⑮腫瘍崩壊症候群(0.2%)①①⑯ニューロパシー(3.2%)①①⑰肺高血圧症(1.3%)

アイスフラット （長生堂）	消化性潰瘍・胃炎治療剤 水酸化アルミニウムゲル・水酸化マグネシウム
----------------------	--------------------------------------

【内】〔服用〕 **【禁忌】**透析療法を受けている者〔長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血等が発現〕

アイセントレス （MSD）	HIV インテグラーゼ阻害剤 ラルテグラビルカリウム
----------------------	-------------------------------

【授乳婦】授乳中止〔ラットで乳汁中へ移行。ヒトの乳汁中への移行は不明。乳汁を介して HIV 母児感染〕

【重副】〔錠〕①皮膚粘膜眼症候群①①②薬剤性過敏症候群①①③過敏症①①④横紋筋融解症、ミオパチー①①⑤腎不全①①⑥肝炎①①⑦胃炎①①⑧陰部ヘルペス

アイソボリン （ファイザー）	活性型薬酸製剤 レボホリナートカルシウム
-----------------------	-------------------------

注〔注用〕

【警告】①レボホリナート・フルオロウラシル療法及び持続静注併用療法はフルオロウラシルの細胞毒性を増強する療法であり、本療法に関連したと考えられる死亡例が認められている。本療法は高度の危険性を伴うので、緊急時に十分に対応できる医療施設において、癌化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、適応患者の選択を慎重に行い、本療法が適切と判断される症例についてのみ実施すること。適応患者の選択にあたっては、両剤の添付文書を参照して十分注意すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分に説明し、同意を得てから施行すること②本療法は重篤な骨髄抑制、激しい下痢等が起こることがあり、その結果、致命的な経過をたどることがあるので、定期的（特に投与初期は頻回）に臨床検査（血液検査、肝機能・腎機能検査等）を行うなど患者の状態を十分観察し、異常が認められた場合には、速やかに適切な処置を行うこと③本療法以外の他の化学療法又は放射線照射との併用、前化学療法を受けていた患者に対する安全性は確立していない。重篤な骨髄抑制等の副作用の発現が増強するおそれがあるので、患者の状態を十分観察し、異

常が認められた場合には、速やかに適切な処置を行うこと④本剤の成分又はフルオロウラシルに対し重篤な過敏症の既往歴のある患者には本療法を施行しないこと⑤テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤との併用により、重篤な血液障害等の副作用が発現するおそれがあるので、本療法との併用を行わないこと

禁忌 ①重篤な骨髄抑制(骨髄抑制の増悪により重症感染症を併発、致命的となる)②下痢(下痢が増悪して脱水、電解質異常、循環不全を起こし、致命的となる)③重篤な感染症を合併している者(骨髄抑制により感染症が増悪、致命的となる)④多量の腹水、胸水(重篤な副作用が発現、致命的となる)⑤重篤な心疾患・その既往歴(症状の増悪又は再発で、致命的となる)⑥全身状態が悪化している者(④に同じ)⑦フルオロウラシルに重篤な過敏症の既往歴⑧テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤を投与中・投与中止後7日以内

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テガフル・ギメ	早期に重篤な血液障害や下痢、	ギメラシルがフルオロウラシル・オテラシルの内臓等の消化管障害等。併用薬をルカリウム配合剤投与中・投与中止後少なくとも7日以内は本療法を施行しない

授乳婦 授乳中止(安全性未確立)
副作用 ①激しい下痢②重篤な腸炎③骨髄抑制④ショック、アナフィラキシー⑤白質脳症、精神・神経障害⑥うっ血性心不全、心筋梗塞、安静狭心症⑦肝機能障害、黄疸⑧急性腎障害等の重篤な腎障害⑨間質性肺炎⑩消化管潰瘍、重篤な口内炎⑪手足症候群⑫播種性血管内凝固症候群⑬嗅覚脱失⑭高アンモニア血症⑮急性肺炎⑯劇症肝炎、肝硬変、心室頻拍、ネフローゼ症候群、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症、溶血性貧血

アイトロール(トアエイヨー) 狭心症治療用 ISMN 製剤
 一硝酸イソソルビド

禁忌 ①重篤な低血圧・心原性ショック[血管拡張作用でさらに血圧を低下させ、症状が悪化]②閉塞隅角緑内障(眼圧が上昇)③頭部外傷・脳出血(頭蓋内圧が上昇)④高度な貧血(血圧低下で貧血症状(めまい、立ちくらみ等)が悪化)⑤硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往歴⑥ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤、グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤を投与中[降圧作用が増強、過度に血圧を低下]

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤 シルデナフィルクエン酸塩(バイアグラ、レパチオ)、バルデナフィル塩酸塩水和物(レビトラ)、タダラフィル(シアリス、アドシルカ、ガルティア)	降圧作用↑	本剤はcGMP産生↑、併用薬はcGMP分解↓、併用によりcGMPの増大を介する本剤の降圧作用↑
グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤 リオンシアト(アテムパス)		ともにcGMP産生↑、cGMPの増大を介する本剤の降圧作用↑

授乳婦 授乳中止(ラットで乳汁中へ移行)

重制 肝機能障害、黄疸
アイピーディ(大腸薬品) アレルギー性疾患治療剤
 スプラタストシル酸塩

内(製)服用 (授乳婦)授乳中止(ラットで乳汁中へ移行)
重制 ①肝機能障害、黄疸②ネフローゼ症候群

アイファガン(千寿) 緑内障・高眼圧症治療剤
 プリモニジン酒石酸塩

外(点眼) **禁忌** ①本剤(成分)に過敏症の既往歴②低出生体重児、新生児、乳児又は2歳未満の幼児[9.7.2参照]
小児 ⑦②低出生体重児、新生児、乳児、2歳未満の幼児[外国での市販後において、プリモニジン酒石酸塩点眼液を投与した乳児に無呼吸、徐脈、昏睡、低血圧、低体温、筋緊張低下、嗜眠、蒼白、呼吸抑制及び傾眠が発現。][2.2参照]

アイベータ(千寿) 緑内障・高眼圧症治療剤
 プリモニジン酒石酸塩・チモールメリン酸塩

外(点眼) **禁忌** ①本剤(成分)に過敏症の既往歴②低出生体重児、新生児、乳児又は2歳未満の幼児[9.7.2参照]③気管支喘息・その既往歴、気管支痙攣又は重篤な慢性閉塞性肺疾患[喘息発作の誘発・増悪。][11.1.2参照]④コントロール不十分な心不全、洞性徐脈、房室ブロック(Ⅱ・Ⅲ度)、心原性ショック[これらの症状を増悪させる。][11.1.3参照]

小児 ⑦②低出生体重児、新生児、乳児、2歳未満の幼児[外国での市販後において、プリモニジン酒石酸塩点眼液を投与した乳児に無呼吸、徐脈、昏睡、低血圧、低体温、筋緊張低下、嗜眠、蒼白、呼吸抑制及び傾眠が発現。][2.2参照]
重制 ①①①眼類天疱瘡①①②気管支痙攣、呼吸困難、呼吸不全①①③心ブロック、うっ血性心不全、心停止①①④脳虚血、脳血管障害①①⑤全身性エリテマトーデス

アイミクスHD(大日本住友) 長時間作用型ARB/
アイミクスLD(大日本住友) 持続性Ca拮抗薬配合剤
 イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩

禁忌 ①本剤(成分)・ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往歴②妊婦・妊娠の可能性[9.5参照]③アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の者を除く)[10.1参照]

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アリスキレンフマル酸塩(ラジレス)	イルベサルタンで非致死性脳卒中、腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧のリスク↑	レニン-アンジオテンシン系阻害作用↑

妊婦 投与しない。投与中に妊娠が判明した場合は、直ちに投与中止(妊娠中期・末期に他のアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤やアンジオテンシン変換酵素阻害剤を投与された高血圧症の患者で羊水過少症、胎児・新生児の死亡、新生

外(膏) **禁忌** 重度・広範囲の熱傷(酸化亜鉛が創傷部位に付着、組織修復が遅延)

亜鉛華デンプン 収斂・消炎・保護剤
 亜鉛華デンプン

外(困) **禁忌** ①重度・広範囲の熱傷(酸化亜鉛が創傷部位に付着、組織修復が遅延)②患部の浸潤(デンプンの保湿作用で、患部が悪化)

亜鉛華軟膏 収斂・消炎・保護剤
 亜鉛華軟膏

外(膏) **禁忌** 重度・広範囲の熱傷(酸化亜鉛が創傷部位に付着、組織修復が遅延)

アーガメイト(三和化学) 高カリウム血症改善剤
 ポリスチレンスルホン酸カリウム

内(腸)閉 **禁忌** 腸閉塞(腸管穿孔を起こす)
重制 腸管穿孔、腸閉塞、大腸潰瘍

アガルシダーゼ ベータ BS(JCR) 遺伝子組換えファブリー病治療剤
 アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)

注(注)
警告 本剤投与により、重篤なアナフィラキシーが発現する可能性があるため、本剤は、緊急時に十分な対応のできる準備をした上で投与を開始し、投与終了後も十分な観察を行う。また、重篤な Infusion-associated reaction が発現した場合には、本剤の投与を中止し、適切な処置を行う
禁忌 本剤(成分)・α-ガラクトシダーゼ製剤にアナフィラキシーショックの既往歴
授乳婦 授乳中止(安全性未確立)
重制 Infusion-associated reaction(6.3%)

アカルボース 食後過血糖改善剤
アカルボース OD(武田テバファーマ) アカルボース

内(錠) **禁忌** ①重症ケトosis、糖尿病性昏睡又は前昏睡[輸液及びインスリンによる速やかな高血糖の是正が必須となるので本剤投与は適さない]②重症感染症、手術前後、重篤な外傷[インスリンによる血糖管理が望まれるので本剤投与は適さない]③妊婦・妊娠している可能性の婦人
妊婦 投与しない[安全性未確立]
重制 ①低血糖②腸閉塞③肝機能障害、黄疸(類薬)重篤な肝硬変例での意識障害を伴う高アンモニア血症

アキネトン(大日本住友) 抗パーキンソン剤
 ビペリデン製剤

内(錠)注(注) **禁忌** ①閉塞隅角緑内障(抗コリン作用により眼圧が上昇、症状が悪化)②重症筋無力症(抗コリン作用により症状が悪化)
重制 ①悪性症候群②依存性

アキシャルックス(東天メディカル) 抗体・光感受性物質複合体
 セツキシマブ サロタロカンナトリウム(遺伝子組換え)

注(注)
警告 本剤は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法

アクセ

及び光線力療法の十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤の投与が適切と判断される症例についてのみ投与する。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与する

禁忌 **2)** 本剤(成分)に過敏症の既往歴 **2)** 頸動脈への腫瘍浸潤【腫瘍縮小・壊死に伴う頸動脈出血、腫瘍出血が発現。[8.1, 9.1.1, 11.1.1 参照]]

合併症・既往歴等 **9)** 頸動脈・静脈等への腫瘍浸潤【頸動脈への腫瘍浸潤が認められる者には投与しない。腫瘍縮小・壊死に伴う頸動脈出血、腫瘍出血が現れる。[2.2, 8.1, 11.1.1 参照]]

重制 **1)** 頸動脈出血、腫瘍出血(5.6%) **1)** 舌腫脹(13.9%)、喉頭浮腫(5.6%) **1)** Infusion reaction(2.8%) **1)** 重度の皮膚障害

アクセノン (大日本住友) 抗てんかん剤
エトトイン

内因 **禁忌** ヒダントイン系化合物に過敏症

重制 **1)** 皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死症 **2)** 過敏症候群 **3)** SLE 様症状 **4)** 再生不良性貧血、汎血球減少、無顆粒球症、単球形白血球、血小板減少、溶血性貧血、赤芽球病 **5)** 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸 **6)** 間質性肺炎 **7)** 悪性リンパ腫、リンパ節腫脹 **8)** 小脳萎縮 **9)** 横紋筋融解症 **10)** 急性腎不全、間質性腎炎

アクタリット (沢井, 東亜薬品) 抗リウマチ剤
アクタリット

内因 **禁忌** 妊婦・妊娠している可能性の婦人・授乳婦 **妊婦** 投与しない【安全性未確立。ラットで胎児へ移行】 **授乳婦** 投与しない【ラットで乳汁中へ移行】 **重制** **1)** ネフローゼ症候群 **2)** 間質性肺炎 **3)** 再生不良性貧血、汎血球減少、無顆粒球症、血小板減少 **4)** 肝機能障害 **5)** 消化性潰瘍、出血性大腸炎 **6)** 急性腎不全、肺線維症、天疱瘡様症状

アクチット (扶桑) 血液代用剤
酢酸維持液

注 **禁忌** **1)** 高カリウム血症、乏尿、アジソン病、重症熱傷、高窒素血症【血清カリウム値が上昇】 **2)** 高リウム血症、低カルシウム血症、副甲状腺機能低下症【血清リン値が上昇】 **3)** 高マグネシウム血症、甲状腺機能低下症【血清マグネシウム値が上昇】

重制 アナフィラキシーショック

重 **アクチバシン** (協和キリン) 血栓溶解剤(rt-PA 製剤)
アルテプラゼ (遺伝子組換え)

注 **注用**

警告 (効能共通) **1)** 本剤の投与により脳出血による死亡例が認められているため、「禁忌」及び「重要な基本的注意」等に十分留意し、適応患者の選択を慎重に行った上で、本剤投与による頭蓋内出血等の出血性有害事象の発現に十分注意して経過観察を行う(虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善(発症後 4.5 時間以内)) **2)** 重篤な頭蓋内出血を起こす危険性が高いので、次の基準を満たす状況下で使用する[8.4 参照]: 1) 随時コンピューター断層撮影(CT)や核磁気共鳴画像(MRI)の撮影が可能な医療施設の SCU、ICU あるいはそれに準ずる体制の整った施設 2) 頭蓋内出血が認められた場合等の緊急時に、十分な措置が可能な設備及び体制の整った医療施設 3) 虚血性脳血管障害の診断と治療、CT 等画像診断に十

分な経験を持つ医師のもとで使用す **1)** 胸部大動脈解離の悪化あるいは胸部大動脈瘤破裂を起こし死亡に至った症例が報告されているため、胸痛又は背部痛を伴う、あるいは胸部 X 線にて縦隔の拡大所見が得られるなど、胸部大動脈解離あるいは胸部大動脈瘤を合併している可能性がある患者では、適応を十分に検討する

禁忌 (効能共通) **2)** デフィプロチドナトリウムを投与中 [10.1 参照] **2)** 出血している者(頭蓋内出血、消化管出血、尿路出血、後腹膜出血、喀血)【出血を助長する】 **2)** 重篤な肝障害 [9.3.1 参照] **2)** 急性腎炎(急性腎炎が悪化したり、出血する) **2)** 本剤(成分)に過敏症の既往歴(虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善(発症後 4.5 時間以内)) **2)** **2)** も膜下出血の疑い **2)** 脳出血を起こすおそれの高い次の者: 1) 投与前に適切な降圧治療を行っても、収縮期血圧が 185mmHg 以上又は拡張期血圧が 110mmHg 以上 [9.1.7 参照] 2) 投与前の血糖値が 400mg/dL を超える者 [9.1.6 参照] 3) 投与前 CT で早期虚血性変化(脳実質の吸収値がわずかに低下あるいは低減の消失)が広範に認められる者 4) 投与前 CT (又は MRI) で正中線偏位などの圧排所見が認められる者 5) 頭蓋内出血の既往歴又は頭蓋内腫瘍、動静脈奇形、動脈瘤などの出血性素因のある者 6) 脳梗塞の既往歴(3 ヶ月以内) [9.1.1 参照] 7) 頭蓋内あるいは脊髄の手術又は傷害を受けた者(3 ヶ月以内) **2)** 出血するおそれの高い次の者(出血を助長する): 1) 消化管出血又は尿路出血の既往歴(21 日以内) 2) 大手術後、日の浅い者(14 日以内) 3) 投与前の血小板数が 100,000/mm³ 以下 [9.1.8 参照] **2)** 経口抗凝固薬やヘパリンを投与している者においては、投与前のプロトロンビン時間 - 国際標準値 (PT-INR) が 1.7 を超えるか又は活性化部分トロンボプラスチン時間 (aPTT) が延長している者 **2)** 投与前の血糖値が 50mg/dL 未満(低血糖状態による意識障害との鑑別が困難) **2)** 発症時に痙攣発作が認められた者【てんかんによる痙攣発作との鑑別が困難である】(急性心筋梗塞における冠動脈血栓の溶解(発症後 6 時間以内)) **2)** 出血するおそれの高い次の者(出血を助長する) 1) 頭蓋内出血の既往又は頭蓋内腫瘍、動静脈奇形、動脈瘤などの出血性素因のある者 2) 脳梗塞の既往歴(3 ヶ月以内) [9.1.1 参照] 3) 頭蓋内あるいは脊髄の手術又は傷害を受けた者(3 ヶ月以内) 4) 消化管出血又は尿路出血の既往歴(21 日以内) 5) 大手術後、日の浅い者(14 日以内) **2)** 重篤な高血圧症(脳出血を起こす)

併禁

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
デフィプロチドナトリウム(デファイテリオ) [2.1 参照]	出血の危険性↑	マウスの血栓塞栓症モデルにおいて、組換え型 t-PA の抗血栓作用↑

肝障害 **9)** 重篤な肝障害(肝障害が悪化、出血する。[2.3 参照])

重制 **1)** 重篤な出血 **1)** 出血性脳梗塞(脳: 14.4%) **1)** 脳梗塞(脳: 0.6%) **1)** ショック(脳: 0.1%未満, 心: 0.1%), アナフィラキシー

アクフ

1) 心破裂(心: 0.2%)、心タンポナーデ **1)** 血管浮腫 **1)** 重篤な不整脈 ※発現頻度は、脳: 虚血性脳血管障害急性期使用時, 心: 急性心筋梗塞使用時を表す

重 **アクテムラ** (中外) ヒト抗抗 IL-6 レセプターモノクローナル抗体
トシズマブ (遺伝子組換え)

注

警告 (効能共通) **1)** 感染症: 本剤投与により、敗血症、肺炎等の重篤な感染症が現れ、致命的な経過をたどることがある。本剤は IL-6 の作用を抑制し治療効果を得る薬剤である。IL-6 は急性期反応(発熱、CRP 増加等)を誘引するサイトカインであり、本剤投与によりこれらの反応は抑制されるため、感染症に伴う症状が抑制される。そのため感染症の発見が遅れ、重篤化することがあるので、本剤投与中は患者の状態を十分に観察し問診を行う。症状が軽微であり急性期反応が認められないときでも、白血球数、好中球数の変動に注意し、感染症が疑われる場合には、胸部 X 線、CT 等の検査を実施し、適切な処置を行う [2.1, 8.3, 8.5, 9.1.1, 11.1.2 参照] **2)** 治療開始に際しては、重篤な感染症等の副作用が現れることがあること及び本剤が疾病を完治させる薬剤でないことも含めて患者に十分説明し、理解したことを確認した上で、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ本剤を投与する(関節リウマチ及び多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎) **3)** 本剤の治療を行う前に、少なくとも 1 剤の抗リウマチ薬の使用を十分勘案する。また、本剤についての十分な知識といずれかの疾患の治療経験をもつ医師が使用する [5.1 参照] (全身型若年性特発性関節炎及び成人スチル病) **4)** 本剤についての十分な知識といずれかの疾患の治療の経験をもつ医師が使用する(サイトカイン放出症候群) **5)** 本剤についての十分な知識と腫瘍特異的 T 細胞輸注療法に伴うサイトカイン放出症候群の治療の知識・経験をもつ医師が使用する

禁忌 **2)** 重篤な感染症を合併している者(感染症が悪化。[1.1, 8.3, 8.5, 9.1.1, 11.1.2 参照]) **2)** 活動性結核【症状を悪化。[8.6, 9.1.3, 11.1.2 参照]] **2)** 本剤(成分)に過敏症の既往歴

重制 **1)** アナフィラキシーショック(0.1%)、アナフィラキシー (0.1%) **1)** 感染症 **1)** 間質性肺炎(0.5%) **1)** 腸管穿孔(0.2%) **1)** 無顆粒球症、白血球減少(4.5%)、好中球減少(1.6%)、血小板減少(2.1%) **1)** 心不全(0.2%) **1)** 肝機能障害

注

警告 **1)** 感染症: 本剤投与により、敗血症、肺炎等の重篤な感染症が現れ、致命的な経過をたどることがある。本剤は IL-6 の作用を抑制し治療効果を得る薬剤である。IL-6 は急性期反応(発熱、CRP 増加等)を誘引するサイトカインであり、本剤投与によりこれらの反応は抑制されるため、感染症に伴う症状が抑制される。そのため感染症の発見が遅れ、重篤化することがあるので、本剤投与中は患者の状態を十分に観察し問診を行う。症状が軽微であり急性期反応が認められないときでも、白血球数、好中球数の変動に注意し、感染症が疑われる場合には、胸部 X 線、CT 等の検査を実施し、適切な処置を行う [2.1, 8.4, 8.6, 9.1.1, 11.1.2 参照] **2)** 治療開始に際しては、重篤な感染症等の副作用が現れることがあること及び本剤が疾病を完治させる薬剤でないことも含めて患者に十分説明し、理解したことを確認した上で、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ本剤を投与する **3)** 本剤の治療を行う前に、各適応疾患の既存治療薬の使用を十分勘案する [5.1, 5.2 参照] **4)** 本剤についての十分な知識と適応疾患の治療の知識・経験をもつ医師が使用する

禁忌 **2)** 重篤な感染症を合併している者(感染症が悪化。[1.1, 8.4, 8.6, 9.1.1, 11.1.2 参照]) **2)** 活動性結核【症状を悪化。[8.7, 9.1.3, 11.1.2 参照]] **2)** 本剤(成分)

に過敏症の既往歴

重制 **1)** アナフィラキシーショック、アナフィラキシー (0.3%) **1)** 感染症 **1)** 間質性肺炎 **1)** 腸管穿孔(0.2%) **1)** 無顆粒球症、白血球減少(7.3%)、好中球減少(6.4%)、血小板減少(1.8%) **1)** 心不全 **1)** 肝機能障害

重 **アクトス** (武田テバ薬品) インスリン抵抗性改善剤-2 型糖尿病治療剤 - **アクトス OD** (武田テバ薬品) ビオグリタニン塩酸塩

内因 **禁忌** **2)** 心不全・その既往歴(動物において循環血漿量の増加に伴う代償性的変化と考えられる心重量の増加、また、臨床的にも心不全を増悪、発症。[11.1.1, 11.1.2 参照]) **2)** 重症ケトosis、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1 型糖尿病【輸液、インスリンによる速やかな高血糖の是正が必須】 **2)** 重篤な肝機能障害 [9.3.1 参照] **2)** 重篤な腎機能障害 [9.2.1 参照] **2)** 重症感染症、手術前後、重篤な外傷【インスリン注射による血糖管理が望まれるので本剤の投与は適さない】 **2)** 本剤(成分)に過敏症の既往歴 **2)** 妊婦・妊娠の可能性 [9.5 参照]

肝障害 **9)** 重篤な肝機能障害(本剤は主に肝臓で代謝されるため、蓄積する。[2.3 参照]) **妊婦** 器官形成期投与(ラット)では、40mg/kg 以上の群で胚・胎児死亡率の高値、出生児の生存率の低値が、器官形成期投与(ウサギ)では、160mg/kg 群で親動物の死亡または流産がそれぞれ 1 例、胚・胎児死亡率の高値 [2.7 参照]

重制 **1)** 心不全 **1)** 浮腫(8.2%) **1)** 肝機能障害、黄疸 **1)** 低血糖 **1)** 横紋筋融解症 **1)** 間質性肺炎 **1)** 胃潰瘍の再燃

重 **アクトネル** (E.A. ファーマ) 骨粗鬆症・骨ペーজেット病治療剤
リセドロン酸ナトリウム水和物

内因 **禁忌** **2)** 食道狭窄又はアカラシア(食道弛緩不能症)等の食道通過を遅延させる障害のある者(本剤の食道通過が遅延することにより、食道局所における副作用発現の危険性が高くなる。[11.1.1 参照]) **2)** 本剤(成分)・他のビスホスホネート系薬剤に過敏症の既往歴 **2)** 低カルシウム血症【血清カルシウム値が低下し低カルシウム血症の症状が悪化】 **2)** 服用時に立位あるいは坐位を 30 分以上保てない者 [7., 11.1.1 参照] **2)** 妊婦・妊娠の可能性 [9.5 参照] **2)** 高度な腎機能障害(クレアチニンクリアランス値: 約 30mL/分未満) [9.2.1, 16.6.1 参照]

腎障害 **9)** 高度腎機能障害患者(クレアチニンクリアランス値が約 30mL/分未満では排泄が遅延。[2.6, 16.6.1 参照]) **妊婦** 他のビスホスフォネート系薬剤と同様、生殖試験(ラット)で、低カルシウム血症による分娩障害の結果と考えられる母動物の死亡、胎児の骨化遅延等 [2.5 参照] **重制** **1)** 上部消化管障害 **1)** 肝機能障害、黄疸 **1)** 顎骨壊死・顎骨骨髄炎 **1)** 外耳道骨壊死 **1)** 大腿骨转子下及び近位大腿骨幹部の非定型骨折

アクプラ (日医工) 抗悪性腫瘍剤
ネダプラチン

併用禁忌参照のための薬物群と成分および製品

本文中の【併用禁忌】の項に記載されている薬物群をあげ、それに該当する成分名（一般名）と製品（配合剤を含む）の一部を例示した。併用禁忌の成分が注射剤のみ等、一部の投与経路に適用される場合については、その経路を薬物群名の後の【 】内に記載した。製品名は本書の見出し語に準じた。

アゾール系抗真菌剤**【内用薬、注射薬】****イトラコナゾール**

イトラコナゾール

イトリゾール

フルコナゾール

ジフルカン

フルコナゾール

ボサコナゾール

ノクサフィル

ホスフルコナゾール

プロジフ

ホスラブコナゾール

ネイリン

ポリコナゾール

ブイフェンド

ポリコナゾール

ミコナゾール

フロリード

フロリード F

アドレナリン作動薬**アドレナリン**

アドレナリン

エピベン

ボスミン

アブラクロニジン塩酸塩

アイオピジン UD

アメジニウムメチル硫酸塩

アメジニウムメチル硫酸塩

リズミック

イソクスブリン塩酸塩

スファジラン

dl-イソプレナリン塩酸塩

アスプール

イソメニール

プロタノール S

l-イソプレナリン塩酸塩

プロタノール L

エチレフリン塩酸塩

エホチール

エフェドリン塩酸塩

エフェドリン

グアナベンス酢酸塩

ワイテンス

グリコピロニウム臭化物・

ホルモテロールフマル塩酸水和物

ピベスピ

クレンブテロール塩酸塩

クレンブテロール

スピロペント

トニール

クロニジン塩酸塩

カタプレス

サルメテロールキシナホ酸塩・

フルチカゾンプロピオン酸エステル

アドエアアゾール

アドエアディスカス

ジヒドロコデイン・エフェドリン配合剤

セキコデ

ジプロフィリン・ジヒドロコデイン配合剤

カフコデ N

ジプロフィリン・メトキシフェナミン配合剤

アストーマ

鎮咳配合剤

クロフェドリン S

ニチコデ

フスコデ

フスコプロン

ブラコデ

ムコプロチン

ライトゲン

ツロブテロール

ツロブテロール

ツロブテロール塩酸塩

ツロブテロール塩酸塩

ツロブテロール塩酸塩小児用

デクスメトミジン塩酸塩

プレセデックス

デノパミン

デノパミン

テルブタリン硫酸塩

ブリカニール

ドカルバミン

タナドーパ

ドパミン塩酸塩

イノバン

塩酸ドパミン

カコージン D

ツルドパミ

ドパミン塩酸塩

ドブタミン塩酸塩

ドブタミン

ドブタミン塩酸塩

ドブトレックス

ドブボン

トラマゾリン塩酸塩

トラマゾリン

トリメトキノール塩酸塩

イノリン

トロピカミド・フェニレフリン塩酸塩

オフミック

サンドール P

ミドリリン P

ミドレフリン P

ナファゾリン硝酸塩

プリピナ

ノルアドレナリン

ノルアドレナリン

フェニレフリン塩酸塩

ネオシネジン

フェノテロール臭化水素酸塩

フェノテロール臭化水素酸塩

ペロテック

ブデソニド・グリコピロニウム臭化物・

ホルモテロールフマル塩酸水和物

ビレーズトリ

ブデソニド・

ホルモテロールフマル塩酸水和物

シムビコート

ブデホル

プリモニジン酒石酸塩

併用禁忌に記載のある薬剤名等一覧

本文中の【併用禁忌】の項に記載のある薬剤のみを抜粋し、確認しやすいよう一覧にした。【薬剤名／一般名】は本書の見出し語に準じ、五十音順に並べた。【併用禁忌にあたる薬剤】では本文中に記載のある成分と製品名を掲載し、薬物群の記載があるものは薬物群のみを掲載した。

※【併用禁忌】における臨床症状・措置方法、また機序・危険因子については、各薬剤の本文該当ページを参照。

薬剤名／一般名	併用禁忌にあたる薬剤
アイオピジンUD/アプラクロニジン塩酸塩	モノアミン酸化酵素阻害剤
アイソボリン/レボホリナートカルシウム	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤〈ティーエスワン〉
アイトロール/一硝酸イソソルビド	ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤 グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤
アイミクスHD/イシルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩	アリスキレンファル酸塩〈ラジレス〉(糖尿病に使用する場合。ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の者を除く)
アイミクスLD/イシルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩	アリスキレンファル酸塩〈ラジレス〉(糖尿病に使用する場合。ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の者を除く)
アクチバシン/アルテプラゼ	デフィプロチドナトリウム〈デファイテリオ〉
アザニン/アザチオプリン	生ワクチン フェアキシスタット〈フェブリク〉 トピロキソスタット〈トピロリック、ウリアデック〉
亜硝酸アミル/亜硝酸アミル	〈狭心症〉 ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤 グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤
アジレクト/ラサギリンメシル酸塩	MAO阻害薬 ペチジン塩酸塩含有製剤〈ペチロルファン〉 トラマドール塩酸塩〈トラマール〉 タベンタドール塩酸塩〈タベンタ〉 三環系抗うつ薬 四環系抗うつ薬 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節薬 セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 リスデキサフェタミンメシル酸塩〈ピバンセ〉 ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ薬
アストマリ/デキストロメトラン臭化水素酸塩	MAO阻害剤
アスパラ/L-アスパラギン酸カリウム・L-アスパラギン酸マグネシウム	エプレレノン〈セララ〉
アスパラカリウム/L-アスパラギン酸カリウム	エプレレノン〈セララ〉
アスパラギン酸カリウム/L-アスパラギン酸カリウム	エプレレノン〈セララ〉
アスプールの/dl-イソプレナリン塩酸塩	カテコールアミン製剤 エフェドリン製剤、メチルエフェドリン製剤〈メチエフ等〉
アズマネックス/モメタゾンフランカルボン酸エステル	デスマプレシジン酢酸塩水和物〈ミニリンメルト〉(男性における夜間多尿による夜間頻尿)
アゼルニジピン/アゼルニジピン	アゾール系抗真菌剤(外用剤を除く) HIVプロテアーゼ阻害剤 コピシスタットを含有する製剤 オムピタスビル・パリタプレビル・リトナビル〈ヴィキラックス〉

薬剤名／一般名	併用禁忌にあたる薬剤
アソセמיד/アソセמיד	デスマプレシジン酢酸塩水和物〈ミニリンメルト〉(男性における夜間多尿による夜間頻尿)
アデカット/デラプリル塩酸塩	デキストラン硫酸固定化セルロース、トリプトファン固定化ポリビニルアルコール又はポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器によるアフエレーシスの施行(リポソーパー、イムソーパーTR、セルソーパー) アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜(AN69)を用いた透析
アテキュラ/インダカテロール酢酸塩・モメタゾンフランカルボン酸エステル	デスマプレシジン酢酸塩水和物〈ミニリンメルト〉(男性における夜間多尿による夜間頻尿)
アデノシン/アデノシン	ジピリダモール〈ベルサンチン〉 メチルキサンチン類 カフェインを含む飲食物
アデノスキャン/アデノシン	ジピリダモール〈ベルサンチン〉 メチルキサンチン類 カフェインを含む飲食物
アデムバス/リオシグアト	硝酸剤・NO供与剤 PDE5阻害剤 アゾール系抗真菌剤 HIVプロテアーゼ阻害剤 オムピタスビル・パリタプレビル・リトナビル〈ヴィキラックス〉
アドシルカ/タダラフィル	硝酸剤・NO供与剤 sGC刺激剤 CYP3A4を強く阻害する薬剤 CYP3A4を強く誘導する薬剤
アドステロールーI 131/ヨウ化メチルノルコレステノール ⁽¹³¹⁾	ジスルフィラム、シアナミド、プロカルバジン塩酸塩
アドゼット/エゼチミブ・アトルバスタチンカルシウム水和物	グレカプレビル・ピレンタスビル〈マヴィレット〉
アドセトリス/ブレソキシマブベドチン	プレオマイシン塩酸塩〈プレオ〉
アドニン-O/オキシトシン	〈分娩誘発、微弱陣痛〉 プロスタグランジン製剤(PGF _{2α} 、PGE ₂)
アドモキセチン/アドモキセチン塩酸塩	MAO阻害剤
アトルバスタチン/アトルバスタチンカルシウム	グレカプレビル・ピレンタスビル〈マヴィレット〉
アトルバスタチンOD/アトルバスタチンカルシウム	グレカプレビル・ピレンタスビル〈マヴィレット〉
アドレナリン/アドレナリン	抗精神病薬 α遮断薬 カテコールアミン製剤 アドレナリン作動薬
アトワゴリバース/ネオスチグミンメチル硫酸塩・アトロピン硫酸塩水和物	脱分極性筋弛緩剤
アナフラニール/クロミプラミン塩酸塩	MAO阻害剤
アニスーマ/dl-メチルエフェドリン塩酸塩・ジプロフィン	カテコールアミン
アバプロ/イシルベサルタン	アリスキレンファル酸塩〈ラジレス〉(糖尿病に使用する場合。ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の者を除く)
アフィニトール/エペロリムス	生ワクチン
アプストラル/フェンタニルエン酸塩	ナルメフェン塩酸塩水和物〈セリンクロ〉
アプレピタント/アプレピタント	ピモジド〈オーラップ錠1mg、3mg、細粒1%〉
アベロックス/モキシフロキサシン塩酸塩	抗不整脈薬
アヘン/アヘン	ナルメフェン塩酸塩水和物〈セリンクロ〉
アヘンチンキ/アヘンチンキ	ジスルフィラム〈ノックピン〉 シアナミド(シアナミド) カルモフル〈ミフロール〉 プロカルバジン塩酸塩 ナルメフェン塩酸塩水和物〈セリンクロ〉
アボネックス/インターフェロンベータ-1a	小柴胡湯
アマージ/ナラトリアタン塩酸塩	エルゴタミン

避妊の記載がある薬剤一覧

添付文書中に、「避妊する」「妊娠を避ける」等の記載がある薬剤を抜粋し、製品名五十音順に並べた。「避妊」とだけあるもの、もしくは「男」の記載がないものは「妊娠する可能性のある女性」を原則対象とし、また条件や補足がある場合は簡潔にまとめてその後に続けた。なお、剤形による区別は省略している。

製品名／一般名	避妊事項
アイクルシグ／ボナチニブ塩酸塩	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
アイリーア／アフリベルセプト	避妊。投与中・最終投与後3ヶ月以上
アキラルックス／セツキシマブ サロタロカンナトリウム	避妊。投与中・投与終了後一定期間
アグリリン／アナグレリド塩酸塩	避妊
アデムパス／リオシグアト	避妊
アドセトリス／ブレンツキシマブ ベドチン	避妊。〔男〕投与中・投与終了後一定期間
アバスチン／ペバシズマブ	避妊。投与中・投与終了後最低6ヶ月間
アビガン／ファビピラビル	避妊。〔男・女〕投与期間中・投与終了後7日間まで極めて有効な避妊法の実施を徹底（男性は必ずコンドームを着用）
アービタックス／セツキシマブ	避妊
アフィニトール／エベロリムス	避妊。投与期間中・治療終了から最低8週間
アブラキサン／バクリタキセル	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
アミティーザ／ルビプロストン	避妊
アムノレイク／タミバロテン	避妊。〔女〕投与開始前の少なくとも1ヶ月間、投与中・投与中止後少なくとも2年間、〔男〕投与中・投与終了後6ヶ月間
アメパロモ／パロモマイシン硫酸塩	避妊
アラノンジ－／ネララピン	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
アラバ／レフルノミド	避妊。〔男・女〕投与中、〔女〕投与終了後、安全な妊娠が可能になるまで
アルケラン／メルファラン	避妊。男・女とも
アレセンサ／アレクチニブ塩酸塩	避妊。投与中・投与終了後一定期間
アンジュ 21／レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	避妊。妊娠を希望する場合には月経周期が回復するまで
アンジュ 28／レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	避妊。妊娠を希望する場合には月経周期が回復するまで
イストダックス／ロミデプソン	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
イブランス／バルボシクリブ	避妊。〔男・女〕投与期間中・治療終了から一定期間
イマチニブ／イマチニブメシル酸塩	避妊。投与中・投与終了後一定期間
イミフィンジ／デュルバルマブ	避妊。投与中・最終投与後一定期間
イムセラ／フィンゴリド塩酸塩	避妊。投与期間中・最終投与後2ヶ月間
イムノブラダー／BCG	避妊
イムブルピカ／イブルチニブ	避妊。投与中・投与終了後一定期間

製品名／一般名	避妊事項
イリノテカン塩酸塩／イリノテカン塩酸塩	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
イレッサ／ゲフィチニブ	避妊
インライタ／アキシチニブ	避妊。投与中・投与終了後一定期間
ヴァンフリタ／キザルチニブ塩酸塩	避妊。〔男・女〕投与中・最終投与後一定期間
ヴォトリエント／パゾパニブ塩酸塩	避妊。投与中・投与終了後一定期間
ヴォリプリス／アンプリセンタン	避妊。投与開始後は確実な避妊法を用いる
エクフィナ／サフィナミドメシル酸塩	避妊。投与中・投与終了後一定期間
エディロール／エルデカルシトール	避妊
エトボシド／エトボシド	避妊。男・女とも
エナロイ／エナロデュスタット	避妊。投与中・投与終了後一定期間
エペレンゾ／ロキサデュスタット	避妊。投与中・投与終了後一定期間
エポルトラ／クロファラピン	避妊
エムプリシティ／エロツズマブ	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
エルデカルシトール／エルデカルシトール	避妊
エルプラット／オキサリプラチン	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
エンテカビル／エンテカビル	避妊
エンテカビル OD／エンテカビル	避妊
エンドキサン／シクロホスファミド	避妊。男・女とも
エンハーツ／トラスツズマブ テルクステカン	避妊。〔男・女〕最終投与後一定期間
エンレスト／サクビトリルバルサルタンナトリウム	避妊。投与中・投与終了後一定期間
オキサリプラチン／オキサリプラチン	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
オテズラ／アプレミラスト	避妊
オニバイド／イリノテカン塩酸塩	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
オビドレル／コロオゴナドロピン アルファ	避妊。調節卵巣刺激中・本剤投与前、卵巣過剰刺激症候群の兆候が認められた場合は少なくとも4日間
オフエブ／ニンテダニブエタンスルホン酸塩	避妊。投与中・投与終了の少なくとも3ヶ月後
オブジーボ／ニボルマブ	避妊。投与中・投与終了後一定期間
オブスミット／マシテンタン	避妊。投与中・投与中止後1ヶ月間
オペプリム／ミトタン	避妊。投与中・投与終了後十分な期間
オルミエント／バリシチニブ	避妊。投与中・投与終了後少なくとも1月経周期
オンパットロ／パチシランナトリウム	避妊。投与中・投与中止後12週間
カイプロリス／カルフィルゾミブ	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
ガザイバ／オビヌツズマブ	避妊。投与中・最終投与後一定期間
カドサイラ／トラスツズマブ エムタンシン	避妊。〔男・女〕投与中・最終投与後一定期間
カバサル／カベルゴリン	避妊
カブレルサ／バンデタニブ	避妊
カベシタピン／カベシタピン	避妊。〔男・女〕投与中・投与終了後一定期間
カベルゴリン／カベルゴリン	避妊
カボメティクス／カボザンチニブリンゴ酸塩	避妊。投与中・投与終了後一定期間
カルセルド／アムルピニン塩酸塩	避妊

飲食物・嗜好品等と医薬品の相互作用一覧

添付文書中の医療用医薬品と飲食物・嗜好品の関係について、「相互作用」の項を中心にまとめ、医療用医薬品を製品名順に一覧表にした。該当する飲食物・嗜好品等については一部、医薬品（例：Al または Mg 含有制酸剤等）も対象とした。なお、一般名は本書の見出し語に準じた。以下、登場するマーク及び各マークの意味をまとめる。その都度参照してご利用いただければ幸いである。

【表中に登場するマーク】

…アルコール

…グレープフルーツ（ジュース）

…セイヨウオトギリソウ含有食品

…牛乳

…茶葉由来飲料

…カフェイン／カフェインを含む飲食物

…ニコチン，タバコ（喫煙）

…魚（マグロ等，ヒスチジンを多く含有するもの）

…チーズ等

…乳製品

製品名/一般名	飲食品	作用、処置法等	記載箇所
アイオナル・ナトリウム/セコバル ピタルナトリウム	アルコール	相互に中枢神経抑制作用↑。減量等	併用注意
アイクルシグ/ボナチニブ塩酸塩	① グレープフルーツ ジュース ② セイヨウオト ギリソウ含有食品	① 本剤の血中濃度↑。本剤を減量等。同時服用× ② 本剤の代謝↑・血 中濃度↓	併用注意
アイスフラット/水酸化アルミニウムゲ ル・水酸化マグネシウム	① 大量の牛乳, Ca 製剤 ② Fe 剤 ③ 活性型ビタミン D ₃ 製剤	① ミルク・アルカリ症候群が発現。投与中止 ② 併用薬の効果↓。同時 服用× ③ 高 Mg 血症を起こす	併用注意
アイセントレス(400mg)/ラルデグラ ビルカリウム	制酸剤 (Al, Mg 含有)	本剤投与後6時間以内で、本剤の血漿中濃度↓。キレート形成による 本剤の吸収↓	併用注意
アイセントレス(600mg)/ラルデグラ ビルカリウム	制酸剤 (Al, Mg 含有)	本剤投与後12時間以内で、本剤の血漿中濃度↓・有効性↓。キレ ート形成による本剤の吸収↓	併用注意
アイトロール/一硝酸イソソルビド	アルコール	血管拡張作用↑、血圧低下等↑。減量又は投与中止、昇圧剤の投与等	併用注意
アイファガン/プリモニジン酒石酸塩	アルコール	鎮静作用↑	併用注意
アイベータ/プリモニジン酒石酸塩・チモ ロールマレイン酸塩	アルコール	相加的に鎮静作用↑	併用注意
アイミクス HD /イルベサルタン・アム ロジピンベシル酸塩配合剤	グレープフルーツジュース	アムロジピンの血中濃度↑、降圧作用↑。同時服用×	併用注意
アイミクス LD /イルベサルタン・アムロ ジピンベシル酸塩配合剤	グレープフルーツジュース	アムロジピンの血中濃度↑、降圧作用↑。同時服用×	併用注意
アイラミド/プリモニジン酒石酸塩・プリ ンソラミド	アルコール	相加的に鎮静作用↑	併用注意
アーガメイト/ポリスチレンスルホン酸カ ルシウム	Al, Mg, Ca を含有する制 酸剤または緩下剤	本剤の作用↓。全身性アルカローシス等の報告	併用注意
アクトス/ピオグリタゾン塩酸塩	アルコール(過度の摂取)	低血糖発現	慎重投与
アクトス OD /ピオグリタゾン塩酸塩	アルコール(過度の摂取)	低血糖発現	慎重投与
アクトネル/リセドロン酸ナトリウム	① 水以外の飲食物 (Ca, Mg 等の含量の特に高いミネ ラルウォーターを含む)、 食物 ② 水以外の飲料、食物 (特に牛乳、乳製品などの 高 Ca 含有飲食物)、多価 陽イオン (Ca, Mg, Fe, Al 等) 含有製剤 (制酸剤、ミネ ラル入りビタミン剤等)	本剤の吸収↓。起床後、最初の飲食前に服用し、本剤を服用後、少な くとも 30 分はこれらの飲食物や薬剤の摂取×	① 用法・用量 (起床時) ② 併用注意
アクロマイシン V /テトラサイクリン塩 酸塩	Ca, Mg, Al, Fe 剤	本剤の吸収↓、効果↓。服用間隔を 2～4 時間とする	併用注意
アザルフィジン EN /サラソスルファピ リジン	葉酸	葉酸の吸収↓、葉酸欠乏症を起こす。葉酸欠乏症が疑われる場合は葉 酸を補給	併用注意
アジスロマイシン/アジスロマイシン	制酸剤 (水酸化 Al, 水酸化 Mg 含有)	本剤の最高血中濃度↓	併用注意
アジスロマイシン小児用/アジスロマイ シン	制酸剤 (水酸化 Al, 水酸化 Mg 含有)	本剤の最高血中濃度↓	併用注意
アシテア/アレルゲンエキス	アルコール	本剤服用前・服用後2時間は摂取×。アナフィラキシー等の副作用が 発現	重要な基本的 注意